其ノ爲メニ現在ノ如ク小作料ヲ取ル爲メノ地主其ノ他ノ存在ハ一ツモナカツタノデアル

之ガ大化ノ改新ニ依ル法文的規律デアル此ノ法則ハ支那ノ道法デアル道即チ法律ニ重キヲ置カカレタノデアル法律ヲ全家族ノ生命体トシテ仰イデ居ル関係上家族的法則ト云フコトガ出来ル

斯クシテ徳川末期迄ハ此ノ制度ニヨリ終始シタノデアルガ社会人ノ生活ハ複雑ニナルニ及ビ或程度迄ノ工業ト其ノ中ニ介在スル商人ガ勢力スルモ當然ト雖モ武士ハ之ヲ賤シミ一番下ノ階級ニ置カレタノモ其ノ理由デアル併シ經濟的ニ実力ヲ得タモノハ政治的ニ社会的ニ勢力ヲ得ルノハ當然デアリオ金ヲ貸スコトニ依リ然シテ之ヲ通ジテ政治的ニ實力ヲ擡頭スルニ至リ武士ハ之ヲ返済スル爲メニ百姓ニ対シ

苛斂誅求ヲスルニ至ツタノデアル　併シ乍ラ家族的統制ノ為メニ至ツタデアロウト云フ萌芽ガ存在シテ居ルノデアル　徳川幕府ガ倒レ去土ナルモノハ浅薄ナル国体論ニ依リ何等確タル認識モナク政策ニ対シテハ猶実的ニ自由民権ノ主張トナリ純資本主義制度ヨリ前進シタル思想ヲ輸入シ我国ノ経済ヲ脅ヲ暴露スルニ至ツタノデアル

オ　七

特権階級ノ弊害ニ付テ

一、特権階級ノ第一ニ政治的ニ及ボス弊害ハ其ノ表現タル貴族院　元老ニヨリナサレルモノデアル　貴族院ハ議会ノ半分ヲ享有シ然モ恐ラク帝国臣民ノ十万分ノ一ニモ満タナイ処ニ非常ナル権力ヲ自分等ノ為ニ施行シテ居ルノデアル

最モ有利ナル階級ニ立ツモノハ改革ヲ欲シナイト

共ニ其ノ害毒ヲ流スハ歴史ノ上ニ明カデアル当国内的ニ外交的ニ其ノ関係ガ復雑ナルニ従ツテ又甚シク政党ハ之ニ迎合スル様ニナルノデアル

次ニ元老ハ憲法上ニモ何等理由ナキ存在デアル我国体ニ於テ非国体的存在デアル皇道的行動アリトシテモ国民思想ニ及ボス影響ハ甚大デアル之ニ対シテモ又政党ハ迎合スルノデアル

其ノ次ハ内大臣デアルガ内大臣ノ存在ハ宮中ノ重臣デアル西園寺ガタオレタ時ニ入夫シニ替ルモノデアルト思フ犬養内閣崩壊ノ時ニ西園寺ハ牧野ニ相談シタルニ其ノ顕著ナル例デアル

三、社會ニ対スル弊害

以上ノ如キハ悉ク非常象的ナルガ故ニ一般国民モ斯ノ如キ国体ナラバト西洋流ノ国体論ヲ信ジタ結果無

5/4.

産党ノ出生トナリ無政府共産主義陰険極リナキ状態トナルノデアル然シテ未ダ嘗テナキ処ノ我ガ国家ノ生命体ハ破壊スルニ至ルノデアル

三、国民ニ及ボス弊害

徴兵制度ニ依テ特権階級等ハ凡ユル手段ヲ講シ徴兵ヲ忌避シ或ハ外国ニ留学セシムガ如キ軍隊ハ農民ノミトナルノデアル之ヲ放任スル時ハロシアノ如クナルデアラウト云フコトハ火ヲ見ルヨリモ明カデアル

（以下云無）

オ 特権階級ノ存續ニツイテ應答

被 現在ニ於ケル華族制度ハ藩籍奉還ノ結果諸侯トサレタノデアルガ功臣公卿ニツイテハ維新後公如キハ之ヲ否定スルコトハ出来ナイガ平安朝以後摂政関白ノ時代アリ相当ヲ擅ニシタルモ公卿デアリ公卿政権ガ武家ニ全クナイトテ武家ニ返ヘラレテ居ルト云フ大史家ハ大ナル誤見デアル全公卿ガ常ニ時ヲ復ケテ居リ現在ノ有力ナル存在トナツテ居ルノデアル

次ニ大名武家デアルガ徳川時代ノ封建政治ハ当然消滅シタノデアルガ維新ノ志士ハ徹底的ニ返還シタ人ルノデアルガ出来ズ之ガ現在ノ有力ナル存在トナツテ居ル功労アリテモ尚何等ノ拡張ヲ要セザルガ本当ノ原因ノ精神ーデアル

次ニ維新ノ功臣即チ藩閥ノ特権ニツイテハ維新

ノ功臣カ栄誉ヲ授ケラレシノナラハ幕府
ニモ栄誉ヲ授クルノガ当然デアル、然ルニ右ノ
ニ対シ階級ニ従ヒ位ヲ贈ラレテ居ル之ハ陸軍デハ
大尉ト合等デアル、右ノ松蔭ノ如キ大忠道ヲ大尉ト
合等ニ扱フニ至リテハ実ニ憤慨ニ堪ヘナイト思ヒ
以上ノ如ク甚先殺ニ対シ接フヘカラザル欠陥カアリ
テアル

一

被才

将校階級ノ根本的過誤ニツイテ述ベル
斯ル階級ノ階級的存在ハ不必要ニテ今ハナイモノデア
リ斯ル階級カラ決的ニ存在スル如ク居ヘルハ大ナル誤
リデアル、公卿階級ハ非常ナル悪ノ階級ヲ悪ク学
ンデ居ルノデアル、然ルニ現在ハ将兵自身ノ為ニ存
在スルノデアリ当時ノ公卿ハ階級的職業ニ立ツテ存
在シタルノデアル、我ガ階級モ平和的存在デアリ士

農工商ト分レテ居リ封建的デハアッタガ此ノ身分的関係デア
リナカッタ、資本家ノ搾取ト云フガ外国ノ如ク搾取
グナケレバ資本家ノ存続ニ関係スルナラバイザ知ラズ
資本全部ガ搾取デアルノデアリマス

オ　之カラ共産主義ニ対スル批判トシテ先ヅ[illegible]
弊害ニツイテ述ベル

彼等共産主義ノ主張デアル労働者専制ノ政治
ハ最悪ナモノデアルカラ思想的並労働運動ニツ
イテノミ述ベタイト思フ
貧富ノ懸隔ノ甚ダシキニ乗ジ階級的分裂主義
ヲ拡大シ国民ノ永続的ヲ抹殺セントスルモノデアル個
人主義ハ大衆ヲ売リ、我民族ノ進退トナリ[illegible]
争ヲ感情的ニ最初ヨリ階級的ニ[illegible]
状ヲ益々激発スルモノデアル、之ヲ存立サセタクナイト云フノハ[illegible]

会的使命ヲ有スル生命ノ大自然主義ハ極端ニ
テ偏狭ナルモノデアル、之ニ対シ彼等ハ本能的排他ヲ
発生セシメタル学生等ハ之ガ宣伝ニ従事シ教育ニ依リ自ラ
ヲ毒スルモノデアル、従テ宗教ハ共産主義者ノ完全ニ
排斥スル処デアリ、現実的ニ行ハレタル宗教ヲ完全
ニ破壊サセタノデアル、宗教家ガ要求ス革命ノ生命ガラノ
ノモ之ニアル処ガ大キイノデアル、従ツテ軍ニ及ボス影
響ハ共産主義思想ハ非国家的デアルカ故ニ軍隊
ニ対スル働キカケハ露骨デアル、日本ニ於テモ政権樹立
ノ影響ヲ受ケテ居ル、戦友ノ煩悩ヲ介シ直接ニ
間接ニ思想ヲ植ヘテ自ラ自然ノ依頼ヲ増サセ
此思想ヲ助長セシメ上官ノ命ニ対シ反抗的態度
ヲ助長セシメ斯クシテハ軍隊ノ家族主義破壊シ
結果ハ、軍隊ヲシテ要領兵トシテ悪化セシムル

ナニヲイフ此點デアル、平時ハ兎ニ角戰時ニ於テハ威ニ
功利デ米一揆ハ無政府的思想ニ傾カンコトハナイ
ガ價ナク物價ニ就ク時成金ノ暴肉ガ起リ或ハ政府
當等ニ印刷物等ヲ入レルノデアルガ今日ノ上海事
變ニ於テハソレハナイデアラウコトハ想像ニ難クナイト思
フノデアリマス、
對ニ支那ニ對スル其ノ目ノ思想ニ入ル合理的再
國當地於ノ訊問ハ除ク
除イテ訊問スルガ共産主義ノ價値ニツイテ述ベ又白
抹
マルクス資本論ハ一ツモ讀ンダノヲ見タコトガナイ
ノデ或ハ學術的ニ研究シタコトガアルカモ知レナイガ
社會主義運動家トシテノ一般甚ノ批判ヲ中止シタノデ
ヒマス、米ニ國家論デアル、マルクス主義ハ永久實現ニ再ビ
ノデアルカ西洋ノ國家ニツイテ妥當デアルカドウカニ

ツイテ申上ゲタイ、政治的生活ニハ必ズ指導者ガナケレ
バナラヌ、其指導者ノ支配者ニ対スル行動ガ政治
ナルモノデアルガ、有史以来政治ハ個人主義的専制
的政治家デアツタ。アトハ政治ハ牛耳ラレタガ何カ政
民ノ為ニ為サレタル、専従ノ指揮機関ノミデ
アツタトスルコトハ出来ナイ。然ルニ民衆ハ大衆ノ政
家ノ本質ヲ根ニシテ居ナイ、殊ニ民意ニツイテハ個
人主義的分裂的唯物主義的理論ハ余リニ出過ギテ
ナイノデアル人類ガ発生シテ以来経済ハ其要素ヲ
掴ンデ居ナイノデアル、政治ハ人ノ生活ト対スル農業
唯物経済ニ立脚シ人間ハ唯物的存在デアルト云
フ結論デ理論ヲ進メテ居ルガ人間ハ生命体的
デアリ文化的活動ニ生キルモノデアル、生物的ニ見
ルト「アミーバ」サヘモ全部ニ対スル反、感生

物ノ形影、特ニ孔雀ノ如ク観覧者ニ対シ見セシメ
ントスルガ如キ犬、猿、狐等ハ勿論例證スルノ要ハナイ
唯物的ノミデハナイノデアル然シテ人間ノ衝動ナルモノハ
文化的衝動ガ第一デアリ彼ノ云フ理情的衝動ノミニ
依リテハ蜂蜜デ壁ヲ積ムガ如キ向上アルノミデアル
文化的衝動ハ之ヲ有スルモノデアル、生命的統一
アル文化的衝動デアル個人ノ文化的衝動ニ無視シ
テ理情的衝動ヲ拡張スルアトハ生来ナイ故ニ之ハ人
類生物的デハナイ全然唯物的デモナイト思フ、何故
ナラバ唯物的ナモノハナイカラデアル、反対ノ現象ヲ二、三挙
ゲレバ有史以来ノ史家ニ依ル不朽人ハ唯物
義ニノミ生キテ居タカト云フニアメリカノ「アイヒスト」
ノ如キアメリカ人ト性格的ニハ全然デアツタ
太平洋ハ天文学者説ノ如ク陸地デハナク之ヲ擬

ル二北極二近イ「アラスカ」ヲ経タカ赤道附近ヲ経タ
カデアルガ之ヲ見テモ分ル、実験的理由ハ明確ナリ
デアラウトイフコトガ

（以下次葉）

至当デアロウト思フガ大海ヲ丸木舟ニ乗ツテ来タコトハ単タル唯物的衝動ノミニ依ツテ乃ハレルモノデハナイト思フ其他ノ歴史的ニアレキサンダー大王ガ唯物的大王ノミデハナク英国独乙等モ人命ヲ賭シテモ戦フ必要ハナカツタノデアル多クノ学者ハ之ヲ経済的干渉ノミニ見ルガ之ハ大ナル誤リデアル

次ハ共産主義ノ経済理論デアリマスガ之モマルクスハ産業革命以来工業ノ煤烟ノ中迷込ツタノデアルカラ近代工業ヲ如何ニ見テ居ルカト云フト労働価値ヲ絶対的存在トシテ居ル夫レハ心理的社会的教化ガ価値表現ノ最大原因デナケレバナラヌノデアル　労働価値ヲ評価スルハ彼等ニ有利ニ導クノミデアル労働者ガ資本家ニ賃金ノ値上ヲ要求スル時真ニ余剰価値ガ資本家ノ独占ナラバ夫レヲ出サセルコトガ出来ルガ決シテソウデハナイ　現在ハ資本ト企業ト労仂者

ノ三ツニ区分スルモノデアリ ロシアガ経営ヲ労働者ニ全的委
任シタル時其成績ハ思ハシクナク私人企業ニ移シタコ
ハ最モ雄弁ニ物語ルモノデアル当工業ハ我国ニ相容レナイ
コトハ橘ガ申シマシタカラ略シテ置キマス
次ハ労働者統制ノ矛盾ヲ付テ彼等ハ政治的ニモ全的労働者
統制ヲ企テ、居ルガ国家ノ統制ハ棄レルモノノジツリ二重
誤解ヲ犯シテ居ルモノデアル
次ニ共産主義者ノ国際主義デアリマスガ国際的国家ヲ樹立
シ国家的存在ヲ打倒スルニアルガ如キモ之ハ人類的歴史的
ニ根柢ヲ無視シタルモノデアル
次ハ共産主義者ノ反宗教運動ニ付テ申上ゲマス
個人ノ生命体ハ国家生命体ヲ通ジ夫レガ宇宙ノ生命体ヲヲ
通ジテ個人ノ生命ガアル之ガ之ガ宗教ノ本体デアル宇宙ノ
中枢タル神ヲ表現シテ宗教的形式ヲ具現シ宗教的生活ヲ営

ンデ居ルノデアル之ガ仏ハ慈悲デアリキリストハ愛デアル
宗教夫レ自身ヲ否定セムトスル唯物論ハ非人間的非[illegible]
デアルロシアハ宗教排撃ノ后ニレーニンノ死体崇拝
之ヲ替ヘタト云フコトデアル
フランス大革命ニ於テモ反宗教ニ依リ指導シタ[illegible]
其ノ極ニ達シタト云フコトヲ見テモ分ル
ニ 我国ノ共産主義者ハ根本的建設ニ付テ述ベヨ
ヒ 欧米ノ個人主義的経済思想ヲ輸入シタ時ニ其ノ萌芽ヲ持チ
来タラシタモノデアルト云フコトガ出来ル我国家ノ生命体
的伝統ヲ握リ捨テタノモ共産主義者ト全様デアル
オ 日本ノ国民ガ現代ノ政治的制度ニ対シ政党的政治ニ対シテ
無自覚ナル追ヲ述ベヨ
レ 以上述ベマシタ如ク政党財閥共産主義者等ニ依リ互ガ国家
ガ共産主義下ニ追込マラシテ居ルニ拘ラズ代ノ生命体的

伝統ノ自覚ヲ促サントスル者ナキハ実ニ悲シムベキコトデ
ル其ノ第一ハ政治制度ノ無自覚デアル現在ノ非国家的政治
制度ヲ知ルナラバコソ利用シテ政争スルコトガ出来ルノデ
アルガ無自覚ナルガ故ニ警察官ノ収賄等ヲ助長サシテ居ルノ
ノデアル国民ガ自縄自縛ニ陥ッテ居ルノデアル後ハ伝統的
制度ノ無自覚デアル
以上ノ如クナルニ拘ラズ国家ノ伝統的自覚ニ依リ之ヲ改革
スル者ガナイ有リトスレバ無政府主義者或ハ暴力国的傾向
政治意識ナキモノガ跋扈スルノミデアル国民同盟ノ如キモ
英国ノ組合運動ト同様デアル産業主義退職ガ必然的ニ融合
サレルコトヲ全然没却シテ居ルノデアル之ガ無自覚デアル
オ
現在ノ制度ヲ如何ナル制度ヲ如何ナル制度変革スレバ良イ
メ夫レニ付テ我国ノ現代制度ニハ全然的ノ誤謬ガアルトミ
ツガ夫レヲ述デヲ

以上述ベタル如ク政党特権階級共産主義国民ハ欧米思想ニ
侵サレ現在弊害ヲ改革スルニモ之ヲ欧米流ニ依ラントスルガ
如キハ根本的ニ誤謬デアル 国家夫レ自身ガ生命体的伝統
的制度ガアルノデアルカラ夫レヲ制度トシテ表現シナケレ
バナラヌ 明治維新后ニ於テ経済的ニ対外的ニ対内的ニ異
常ナル変化ニ遭遇シナタト雖モ生命体ヲ忘レテハ国体
ナイノデアル皇道的生命体的伝統制ヲ忘レタノガ明治[illegible]
デアル此所ニ根本的過誤ガアルノデアル
政治制度ヲ如何ニ改革スルヤ[illegible]、政治的伝統性ニ対シ
述ベヨ
政治的伝統性ニハ思想的伝統性ト制度的伝統[illegible]
ハ天皇ニ対スル思想的伝統性ガアリ地方自治的伝統制
外的伝統性ガアル我国ハ従ッテ他国ヲ侵略スルモノデハナ
イノデアル

其ノ一ハ制度的付統制デアル徳川幕府ノ制度ニ付[illegible]ニ適
デタ思想的付統性ヲ背景トシテ如何ニ進メテ行クカ[illegible]ノ
コトデアル天皇離レテ政治ヲ掌握スルノガ幕府デアリ之ヲ世
襲的デアツタ其ノ弊害ハ世襲的デアルガ付統的生命体的訓
練ヲ為メニ之ヲ補ツテ居タノデアル
村落ニ於テ床屋下性代表十人組五人組等デ行ハレタ如ク現
代ヨリ自治制ガ確立シテ居タノデアル徳川幕府ノ欠陥ハ夫
自身ハ改革サルベキ必然的衝動ニ駆ラレタ結果残サレタモ
ノハ三ツアル夫レハ
1、重臣ガ責任ヲ負サレルコト
2、地方的特殊性ヲ充分ニ生カス政治ヲスルコト
3、官僚ガ専門的デアツタト
之ガ制度的付統性デアル以上デアリマス
時ニ午后三時三十分大判長ハ次回ヲ前記ノ如ク予告シ閉廷
ス
右及申報候也

特高秘第五二三五號

昭和八年十月二十八日　警視總監藤沼庄平

内務大臣山本達雄殿

各廳府縣長官殿

寫

警保局 8.11.9

五、一五事件民間側公判状況ノ件（第十四報）

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第十四回公判ハ本日午前九時七分開廷午後三時三十五分閉廷セルガ其ノ状況左記ノ如クニシテ何等事故無之

記

一四四

一日時　十月二十八日　自午前九時七分　至午後三時三十五分

一場所　前報同断

一係判検事　右同　但シ吉江検事本日欠席

一被告人　同

一弁護人　（本日出席者）

森田重次郎　稲川龍雄　石川渉　池田操

池田穣太郎　花井忠　若井孝太郎　柏木五百次郎

金石一夫　樫村廣史　植田亥之吉　前川盈一郎

深作貞治　江橋治郎　遠藤榮三郎　木村半之助

宮下蔵　以下十七名

一傍聴人

1　一般傍聴人　一五名

2　特別　同　二〇名

3　家族　同　三名

一、特別傍聴人ハ主ナルモノ

東京警備司令部副官　牧野騎兵大尉
陸軍法務官　鈴木直太郎
東京憲兵隊　美座大尉
文部省社会教育官　宮本金七
仝学生部調査課　藤田勲
明大、教授　松岡熊三郎
内務属　南坊仁三郎
東京控訴院検事　森山武市郎

二、一般状況

被告人橘孝三郎以下十七名ハ押送自動車三台ニ分乗午前八時十五分市ケ谷刑務所ヨリ構内假監到着法廷内外ニ於ケル警戒其他従前ノ通リ

一、法廷内ノ状況

1、午前八時五十分頃ヨリ弁護人入廷九時二分裁判長以下各判検事入廷引續キ各傍聴人次イデ全被告人九時五分各被告人入廷着席九時七分開廷サル

2、速記二名、各被告服装、メモ並ニ鉛筆ノ手交等従前ノ通リ

3、開廷ト共ニ裁判長ハ前回ニ引續キ被告池松武志ノ訊問ニ入リ「封建政治、並経済制度ノ改革、司法制度ノ改革」等ノ順ニテ被告ノ意見ヲ訊ネ午前十時二十二分休憩トナル

4、午前十時四十五分再開引續キ池松被告ニ對シ「宮中制度ノ改革、改革制度ノ具体的實例、其ノ實行方法」等ニ就キ訊問午前十一時二十七分

休憩トナル

分午前十一時五分再開是レヨリ池松被告ニ對スル犯罪ノ事實審理ニ入リ訊問中ノ亀山弁護人ヨリ被告ニ對シ首相官邸並ニ牧野内大臣官邸襲撃中止云々ニ關シ後文併記セル如キ質疑應答アリ午後二時十七分一時休憩トナル

午後二時四十二分再開引續キ池松被告ノ事實審理ヲ續行シ本日ヲ以テ全被告ノ審理ヲ終リ午後三時三十五分閉廷次回ハ来ル三十一日午前九時ヨリ「奥田秀夫、堀川秀雄」両被告ニ對シ訊問開始ノ豫定

一、被告池松武志ニ對スル訊問ノ概要

裁　引續キ訊ネルガ前回ハ徳川時代ニ於ケル封建政治ノ事ヲ述ベタ様ダガ今度ハ政治ノ改革ト云フ

被

事ニ就イテ述ベテミヨ

申シ上ゲマス政治的傳統制ニ引續イテ政治的現代性ヲ見マスルニ國家的主義主張ト民主的主義主張トハ二ッアリマス而シテ現代ノ政治ハ佛蘭西ノ民權論ニ因ッテ代表サレルモノデアリマシテ一國家ノ君主ハ專制君子デアッテモ時世ヲ経ルニ従ッテ夫レガ暴君的政治トナリ暴動トナリ引續キ英國ニ發生セシ民權主義ト共ニ世界的政治ノ現代性トナリ我國ニ於テモ自由党、開進党主義ノ猛烈ナル政治トナッタノデアリマス

下僕共ノ個人的主義主張ハ我ガ國体トハ全然相反スルモノデアリマシテ民意ニ即シタ政治ヲ採ラネバナラナカッタニセヨ不拘我國ノ識者、

為政者達ガ夫レヲ採ルコト無ク大局ヲ誤ラシメタノハ甚ダ遺憾ナコトデアリマス

又現代ノ参政権モ個人主義的デアリマス、夫レハ國体ヲ基礎トシタモノデナケレバナリマセン

婦人参政権如キハ西洋ノ家庭内ニ迄蔓ッテ居ル個人主義ノ結果デアリマシテ是レヲ我國ニ施用スル如キハ家族的ナル國体ニ反スルモノデスカラ勿論採用スベキモノデハアリマセン、併シ我國ノ男尊民卑ノ風習ハ支那ノ儒教ニ基因スルモノデスカラ教育乃至ハ道徳的ニ改善シナケレバナラスノデアリマス

又婦人ニ参政権ガ附与サレタニシテモ妻タルモノハ、参政权行使ハ決シテ獨断的ナモノデアッテハナラス寧ロ廃棄サルベキモノダト思ヒマス、婦人、

人ノ第一ノ責務ハ先ヅ夫ニ忠實デアリ且ツ子孫ヲ教養シテ行クコトニ在ルノデアリマス
次ハ人材登用デスガ是レモ生命体的家族的國体ニ則リ人材ヲ登用スベキコト勿論デアリマス
次ハ國家主義的主張デアリマスガ是レハ西洋ノ中世期ニ於ケル處ノ個人的主義對立ノ結果夫レカ廣ク世界ニ求メル様ニナツタモノデ現在ノ様ニ火花ヲ散ラス様ニナツタノデアリマス
我ガ國体ハ申ス迄モナク家族的デアリ生命体的一致團結スル誇リヲ持ツテ居ルノデアリマス
夫レハ遠クハ元冦近クハ日清日露ノ戰役ニ於テ立證サレテ居ル處デアリマス我々ハ須ラク東洋ヲ基礎トシテ起ツベク國際主義的協調等ハ全然無用デアリマス

我國ハ生命体的存在デアリ地方自治的デアリ
國体的民权主義デアリ國体的人材登用主義
デアリマスガ現在行ハレテ居ル政治制度モ明治
以来数十年来施行サレ来ツタモノデアルガ私ハ
是レニ如何ナル修正ヲ加フベキカニ就イテ申シ
上ゲマス
先ヅ第一ハ樞密院デアリマスガ是レハ老人許リ
デスカラ廃止シテ是レニ代ル諮詢機關トシテ
成ルベク員数ヲ少クシタ處ノ諮詢機關ヲ設置
シ天皇ノ御裁可ニ積極的ナル行動ヲ採ルベ
キデアリマス
次ニ中央ノ行政官吏ハ何カ問題ガ起レバ早速
責任辞職シスルカ夫レハ問題ノ起ルノハ當然

分ノ

ナ次第テアリテ其ノ度毎ニ辞職シテ居テハ國
民ハ中心ヲ失ヒ遂ニハ政党ニ依頼シテ現在ノ
様ニナルモノテアルカラ是レハ謂ハバ専屬的トモ
云フベキモノニシナケレバナラヌト思ヒマス
次ハ代議制テスガ先ヅ貴族院ハ是レヲ廢止シ只
設階ヲ議スルニ止メ地方自治体ヲ以テ是レニ
當テ形式的ニハ衆議院仝様ナルモ実質的ニハ
第二義的存在タラシメルノテアリマス
次ハ衆議院テスガ政党組織ヲ廢止シテ我ガ国体ニ
相應シイ特権ヲ附與スベキテアリマス、内閣ハ法
律豫算案ヲ下院ニ提出シ議員ハ建議
勅等モ天皇ノ御裁可アレバ自由ニ決議ス、
ル特権ヲ附與スベキトテアリマス

而シテ開會閉會并ハ制限セズ議員ノ三分ノ一以上ノ出席ガアレバ何時デモ開會サレル様ニスベキデアリマス

次ハ地方裁判デアリマスガ現在ノ様ナ制度ハ是レヲ廃止シ知事ハ公選トシナケレバナラヌト思ヒマス

殖民地政策ハ我国ノ生命体的政策ヲ施スベキデアッテ必要ニ應ジ府縣制ヲ布キ中央ニ直属スル様ニスルノデアリマス

以上デアリマス

裁　其ノ次ニハ経済制度ヲ如何ニ改革スベキカニ就イテ全部一括シテ述ベテ見給ヘ

被　ハ一経済制度ニ置キマシテモ現代ニ於テ樹立サルベキ制度ハ我国ノ傳統的現代的制度ヲ加味シナケレバナラヌ事ハ勿論デアリマス

而シテ家族的統制ハ土地ヲモ包含サレテ居タノデアリマ

スガ徳川時代ニ於テハ農民ハ土地ノ賣買迄極端ニ制限サレテ居タノデアリマス乍併現在ノ資本主義的経済機構ハ現代ノ国民ニ採ツテハ何等ノ国利民福ヲ来スベキモノデハ無ク寧ロ共産主義的ニ害悪ヲ流スモノデアルカラ是レモ当然国体本意的ニ改善サレナケレバナリマセン

次ハ経済的現代性デスガ是レハ産業革命以来非常ナ飛躍ノ結果国民ハ機械産業ニ因ル生産ノ技術化或ハ強度ノ集中的生産ノ結果我国ノ如キ家族的分散的統制ハ出来ナクナリマシタカラ国家ハ資力統制ヲ為サネバナラヌノデアリマス乍併統制モ生命体的国家的統制ニ止メテ決シテ束縛スベキモノデハ無イノデアリマス農業方面ニ対シテモ技術的生産的ニ統制サルベキデアリマスガ是レモ現代的ニ或ル程度ノ修正ガ施サレネバナリマセン尚私有財産

ニ対シテハ一般的ニ制限ヲ為シ永久的ニハ束縛シテハナラナイノデアリマス而シテ又鑛山其他ノ重工業ハ直接国家ガ経営シ軽工業ハ個人ガ其ノ企業資本ノ範囲内ニ於テ自由ニ経営シ得ル様ニスベキデアリマス

尚農民ノ土地ハ自治体ヲシテ是レヲ管理セシメ直接農事ニ従事スル者ニノミ貸與シテ租税ハ自治体ヲ通シテ納附セシムベキデアリマス土地管理ト云フト共産主義ノ如キ観ガアリマスガ斯クテコソ小作料ヤ借地料稼ギノ搾取ヲ防止スル事ガ出来ルノデアリマス

次ニハ現代大財閥ノ相續ニ於ケル長男独占権デアルガ父ガ死ネバ弟妹ガ分家シテモ長男ガ遺産ヲ独占スルト云フノハ英国流ノ夫レデアッテ我国ニ於テハ須ラク父ノ遺産ハ平等ニ分配スベキデアリマス以上デアリマス

其ノ次ニハ国家改革ニ対スル被告ノ意見ハ一、

裁

被

我国ノ現代ニ於ケル国防制度ハ陸軍デハ佛蘭西流ヲ海軍デハ英国流ヲ採用シマシタガ其ノ結果ハ西洋ノ本質的模倣デアツタ為メ非當ナル弊害ガ伴ツテ居ルノデアリマス即チ陸海軍ヲ全然別ニシタ結果ハ英国ト佛蘭西ハ非當ニ異ナツテ居ル如ク日本デモ陸軍ト海軍トノ間ニ於テ疎隔ヲ来シ非當ナ不便ヲ感ジツツアルノデアリマス陸海軍ハ統一シテ是レヲ国防部トスベキデアリマス

次ハ兵役制度デアリマスガ幹部候補生制度ハ一般兵ノ反感ヲ激成スルモノデアルカラ是レヲ廃止シ今少シ軍人的養成ヲシテ国家的見地ヨリ徹底サセルト同時ニ在営期間ヲ短縮セシメネバナリマセン海軍モ亦陸軍同様ニ壮兵制度トスベキデアリマス

航空兵ニシテモ亦ソウデアリマシテ兵ノ入営ニ依ツテ失ハレタ物質的損害ニ対シテハ自治体ガ勤労ヲ提供シテ

被裁被　素

何等後顧ノ憂ノ無イ様ニセネバナリマセン而シテ凡テノ機関ヲ戦争目的ノ為メニ集中セシムル様ニスルノデアリマス

様ニ云ツテ居ル様ダガ？

其ノ前ニ司法制度ノ事ヲ申シ述ベタイト思ヒマスガー、

デハ司法制度ニ就イテー、

私ノ申シ上ゲマスノハ裁判、検察権、警察権、行刑権ヲ總稱シタモノデアリマス

現在ノ裁判官ハ独立シタ処ノモノデアリ申シ分ノ無イ処デハアリマスガ唯一ツ官吏其ノ物ハ養成カラシテ国家的ニ養成サルベキデアルト思フノデアリマス

次ニ検察権ハ現在ノ如ク司法大臣ガ政党政治ノ支配下ニ在ツテハ多カレ少カレ其ノ束縛ヲ受ケル状態デアリマスカラ国家的ニ見テ独立サルベキモノデアルト思ヒ

マス
警察権ハ現在ノ制度デハ政党的ニ乱用サレル事ノ最モ甚シイモノデアリマスカラ是レモ独立サレナケレバナリマセン
行刑権ニ就イテハ私ハ特ニ支障ハ認メマセンガ検察権、行刑権、警察権ハ国家的見地ヨリ独立シ是レニ身分保証ヲ與フベキモノデアルト思ヒマス　以上デアリマス

裁　一時休ムカラ掛ケテ――

裁　デハ是レデ休憩致シマス十時四十分ニ始メマス

裁判長ハ右ヲ以テ一應休憩ヲ宣シ一時退廷ス時ニ午前十時二十二分

午前十時四十五分再開裁判長ハ引續キ池松被告ノ訊問ヲ續行ス

裁　デハ被告宮中制度ニ就イテ改革スル点ガアルト申シテ

被

居ル様ダガ如何ナル点カ申シ述ベテミヨ

我国ニ於ケル建国当時ハ祭政一致デアリマシテ最モ重要
ナル位置ヲ占メテ参リマシタガ平安朝ノ末期迄ハ祭祀
モ宮中デ行ハレテ参リマシタ乍併藤原氏ガ政権ヲ武
家ニ奪ハレテ以来ト云フモノハ公卿ハ私利私慾ノ結果
祭祀権モ国民カラ奪ツテ終ツテ此ノ状態ハ近ク維新
前迄モ続キマシタ処ガ夫レモ維新ニ因ツテ政治ガ皇室ニ
帰ツタト同時ニ祭祀権ガ国民ニ帰ツタノモ亦当然ト云ハネ
バナリマセン我国ハ天照大神ノ昔ヨリ祖先ヲ祀ル事ガ
一ツノ特色デアリマス国家夫レ自体モ即チ宇宙ガ生ミ
出シタ一ツノ生命体デアリ神武天皇以来天照大神ヲ宇
宙ナリトシテ国家的ニ祀ツテ来タモノデアリマス
又スメラギノ神スメラキ神宮ヲ設立スルト同時ニ靖国ノ神
ヲ祀ル靖国神社ニハ維新以後ノ忠臣ノミニ限ラズ昔日ニ

逆ツテ全様ニ祭祀セネバナラヌノデアリマス而シテ此ノ三ツノ神宮ヲ国民ニ徹底サセ神官ヲシテ今ノ佛教ヤ基督教ノ様ニ説教サセ尚子供ノ命名等ニ際シテハ立合ハスベキデアルト思ヒマス

乍併是レニ因ツテ敢ヘテ他宗ヲ排斥スルモノデハ無ク基督教ノ如キモ排他的個人主義的ナリト雖モ排斥シヨウトスルモノデハアリマセン現在ノ宮中ノ如ク越権的行動ニ出ル事ハヤメテ侍従武官等ハ凡テ廃止シテ侍従部ヲ置キ他ノ官吏モ凡テ国家的見地ヨリ養成スベキデアリマス

以上デアリマス

裁　デハ制度ノ具体的実例タネ—！実例ニ就イテ述ヘテ見ヨ

被　政治組織ノ全般ハ天皇ノ諮詢機関トシテ最高院ヲ設ケ夫レニ司法部、経済部、国防部、行政部、地方部、内裏部ノ六部ヲ置キ其ノ下ニ参議院ヲ置キ各部カラ一名

宛都合六名ヲ以テ最高部ヲ組織セシメテ全員一致
トシテ天皇ノ御諮詢ニ奉答スル様ニスルノデアリ
マス
現在ノ文部省ノ教育方針ノ如キハ其ノ本
（以下次葉）

2ノ五

貨ニ於テ両得協力的發育デアリ殊ニ大衆等
工程デハ發展經濟學ハ忘レラレテ居ルノ
アリマスガ之レニ對シテハ普通經濟ハ協之
業カラ十四業種トシテ選別シ現在ノ陸
界ノ列國貿易ノ如クニシ其レ以上ノ發展ハ
ハ地方自體偉力ニシテ經營セシメルノデアリ
マス農業經濟ハ總生ノ一大ノ如キモノヲ
綜合大學トシ全國ヨリ優秀ノ生ヲ寄宿
舍ニ入レテノ農業スベキデアリマス
學生方面ニ於テモ電摩機械ノ如キモ
現在ノ如ク營利事業トセズ大偉無料ト
シテヤルベキデアリマス
經濟ニ就テ申シマスレバ生ノ下ニ經濟
金融商生産者販賣者交通消費消費者

3/1

失業者、研究者ノ各省ヲ選ケ各ノ所経済政
議院ヲ設ケテ経済総長ガ是レヲ統括致シマス
次ハ国防省デスガ陸軍省海軍省参謀省教育
省技術省ノ軍事参議院ヲ置キマス、其他同
様デアリマス
次ハ司法部デアリマス我が和検察省特要省
レイセイ省ヲ置キ其他右合様デアリマス
宮中ト朝即チ内裏朝ハシリシエ省ニヨウ省〇シ
省ノ之省トシ参ニ代議院ヲ置ク事ハ前全様デアリ
マス
議会ハ普通院高等院トシ普通院ハ衆議院ニ当
リ法議法ハ乗テ予算法ヲ以テスル事ト致シマス
選挙法ハ是レヲ廃シ自治体ヲシテ公選セシメル事
トシ次ニ補充ハ自治体ノ推薦ニ依ル事トシマス

特務班ハ実検班ニ当リ前ニ申シ述ヘマシタ多数[illegible]二十名ヲ選定シマシテ[illegible]述ヘタ様ナ権限ヲ付与スルノデアリマス以上デアリマス

キ

デハ最後ニ尋ネルカ今述ヘタ様ナ新制度ノ建設ニ対スル実行方法タ、人民ノ点ニ就テ尋ネル

設

ハイ申シ述ヘマス以上申述ヘマシタ所ノ実体策ハ軍部側ヲ主テ我ノ軍事系統的ニ行ハレテ居ル所ノ根本思想ヲ有スルモノデアリマスガ然カモ合法的ニハ凡テノ運動ガ塞カレテ居リマスノデ勢ヒ非合法運動トナツテ現ハレルノデアリマス即チ特権階級政党財閥ヲ倒シテ軍部独裁ヲシテ軍政ヲ確立サセルノデア

3ノ2

ソコデ此ノ點ヲ明カニハ五ケ條ニ華新（維新）ノ
條約ノ勅ヲ起シテ地方政ヲ獲得シ以テ一ノ華
ニ華新ノ目的ヲ達成スルノデアリマス又資
産ハ一億萬弗程、ガデ後ハ國家ニ取ツテ給ヒ而シ
テ大体ノ基礎ガ出来上レバ憲法議會ヲ召集シ
テ以テ平和ニ復活セシムルノデアリマス
生活ハ私有財産ニハ制限ハ加ヘナイガ大体一億萬
弗程トシ夫レ以上ハ銀行ニ預ケテ銀行利子丈
ケニ止メルノデアリマス但シ新聞雑誌等ノ資本
ニ對シテハ何等ノ制限モ加ヘマセン
鉄道電話交通機關ノ如キ公共事業ニ対シ
テハ特別制ヲ設ケルノデアリマス以上デアリマス

キ

デハ此ノ程度デ休憩スルカラ
斯ノ如ク支部長ハ皆シニテ一應報告ヲ復帰セシメ

答　デハ此ノ程度デ休憩致シマス　午后一時カラ始メ
マストテ午前十一時二十七分休憩トナル
続イテ午后一時〇五分再開　裁判長ハ被告松前ニ対
シ[illegible]本件犯罪ノ事実審理ニ入ル
問　デハ是レカラ起訴ノ犯罪事実ニ就イテ訊ネル
ガ昭和十九年十二月頃自己ノ職責カ俘虜ノ看守ハ
中市東京都下大久保俘虜収容所ノ家デ監視
レタ時ノ保テ事件ニ参加スル事ニナッタノカ
答　ソウデアリマス
問　其変デ云ハ坂本憲一ハ古賀ニ会ッタカ
答　会ッテ居リマス
問　何処デ
答　牛込区市ヶ谷仲之町十七番地ノ三宿社デ会ッテ居
リマ

リマス
長 其ノ際坂垣ハ吉岡ト会ツテドンナ話ヲシマシタ
被 四月三日ロカト会ツタラ分ルダラウト云ヒマシタ
長 昭和七年四月三日ニハ会ツタノカ
被 ハイ会ヒマシタ
長 何処デ
被 湯梅神社ノ外苑亭デアリマス
長 其ノ時ノ話ノ内容ハ
被 首相官邸牧野内大臣邸民政党本部工
業倶楽部政友会本部等ノ偵察ヲ志士ニヤツテ
置ク様ニソシテ武器及軍資金ハ大川周明カラ貰
ツテ来テ呉レトノ事デアリマシタ
長 其ノ時頭山秀三カラモ武器入手ノ話ガアツタカ
被 ソウ記憶シテ居リマス

キ　高土備ニ於テモ偵察ニテ置ク様ナ話ガアッタカ

被　ソウデアリマス

キ　偵察ト云フノハ

被　主トシテ連絡デスカラ其ノ位置警戒ノ方法四囲ノ状況等ヲ偵察シ其ノ結果ヲ図面ニ作製スルノデアリマス

キ　デハ大川ノ方カラ大ノ手ニシタ武器ハ

被　拳銃ヲ五、六挺デシタ

キ　デハ夫レハ古賀ガ持ッテル拳銃カ

被　ソウデアリマス

キ　デハ四月五日土備デハ古賀中尉ニ会ッタカ

被　ソウデアリマス

キ　其ノ時ノ話ハ

被　私ガ偵察シタ議院其他ノ状況ヲ現シタ地図ヲ渡

3/4

レタ事記憶アリマセン

才 ソウシテ又其ノ次ノ金曜ニ[illegible]約束ガアッタネ

被 ソウデス

才 昭和七年四月九日附被告ノ下宿デ古賀ト会ッタ筈

被 ソウデアリマス

才 ドンナ用件デ

被 古賀ガ五十発持ッテ来テ渡シタ事ハ記憶アリマセン

才 次ハ昭和七年四月十五日古賀中尉ト中村中尉ニ会ッタネ

被 ソウデアリマス

才 其ノ時ノ話ハ

被 其レ迄ニ作ッタ首相官邸、政友会本部ノ地図ヲ渡シマシタソウシテ其ノ次ノ土曜日ニ来ル約束ヲ致シマシタ

木 其ノ日山本ノ家デ橘ヤ松葉ニ会ッタネ

被 ソウデアリマス

木 其レハ[illegible]ナイカ

被 無イト思ヒマス

木 其ノ時被告ハ橘ヤ松葉ニ会ッテ盛リニ同志ト語ッタカ紹介デモサレタカ

被 簡単ナ紹介ガアッタ様ニ思ヒマス

木 其ノ時武ノ計画ガ洩レハセヌカト心配シテ居ルトノ話ガアッタカ

被 ソウデアリマス

木 四月十九日ニ又山本ノ園ノ石炭中デ松ニ会ッタネ

被 ソウデアリマス

木 其ノ時[illegible]ヲ語ッタカ

被 ソウデス

3/5

右　ドンナ話ガアツタ

被　亭主ノ武器ガ揃ハヌカラ二人デ鎗刀ヲ十本
許リ揃ヘル様ニ夫レカラ拳銃モ出来ル丈ケ
入手スル様ニ夫レカラ西園様ヲ暗殺シタイト
ノ（以下略筆）

ヒ、 話ガアリマシタ

オ 夫レハドウシテ

ヒ、 我々ノ計画ヲバラス惧ガアルカラ早速ヤリ度イガ事前ニヤッテハ危険ニナルカラ決行ト同時ニヤロウトノ話デアリマシタ

オ 誰ニヤラセルトノ話ハ無カッタカ

ヒ、 農民側ニ心当リガアルトノ話デアリマシタ

オ、 其ノ時士官候補生ニ就テノ話モ出タカ

ヒ、 ソウデス満州ヘ旅行スルカラ廿四日ニ会ッテ呉レトノ事デアリマシタ

オ 被告ハ昭和七年四月廿日士官学校デ坂東ニ会ッタカ

ヒ ソウデアリマス、

オ ドンナ話ヲシタ

ヒ、 他ノ候補生達ヘノ伝言ノ事ヤ明治神宮外苑デ会フ事等ヲ話シマシタ

オ、 デハ被告ハ古賀カラ短刀ヲ頼マレテ居ッタカ

ヒ、買ヒマシタ最初ハ浅草ノ仲店デ三本、次ニ今ノ所デ四本求メマシタ
モット買ハウト云ヒマシタガ古賀ガモウ入ラヌト云ッタノデ夫レ以上買ヒ
マセンデシタ

オ、昭和七年四月廿一日新宿ノ明治製菓ノ喫茶店デ被告ハ奥田ニ会
ッタネ、

ヒ　ソウデス

オ　ドンナ話ヲシタ

ヒ、金ヲ十五銭貰ヒマシタ夫レハ古賀ガドウカシタラ東京デハ拳銃ガ手ニ入
ルカモ判ラヌト話シテ居リマシタノデ浅草公園ニ行ッテ土方風ノ男ニ
其ノ事ヲ話シマシタラ五十銭出セバ手ニ入ルカモ判ラヌトノ事デシタノデ
其ノ場デ廿銭丈ケヲ渡シテ置イテ話シテ置キマシタノデ夫レヲ受取リ
ニ行ッタ為デシタ

オ、処ガ被告ハ其ノ金ヲ持ッテ浅草公園ニ行ッテ其ノ男ニ会ッタカ

ヒ、約束ノ場所ニ行ッテ待ッテ居リマシタガ遂ニ其ノ男ハ来マセンデシタ。

オ、ソレデハ結局三十年ハ只忘レテ終ッタノダネ、

ヒ、ソウデアリマス

オ、昭和七年四月廿一日被告ハ関根軍装店デ古賀、中村、坂井ト会合シタネ、

ソ、ソウデス。

オ、ドウシテ

ヒ、四月廿日ニ坂東ニ約束シタ事ヲ待ッテ参リマシタノデ明治神宮外苑デ落合ッテ此処カラ円タクヲ拾ッテ参リマシタ

オ、其ノ際古賀ハドンナ話ヲシタカ。

ヒ、西田税ニ対シテハ注意セネバナラヌ事海軍側デ古賀中村ノ両名ガ若シモ調ベラレル様ナ事ニナッタ場合ハ陸軍側デ後ヲ継イデヤッテ呉レトノ事デアリマシタ夫レカラ浅草デ買ッタ短刀ヲ渡シマシタ

オ、其ノ際本間憲一郎カラ拳銃ヲ受取ッタトノ話ハ無カッタカ、

ヒ　ハッキリ記憶シマセンガ其ノ前後ニアッタ様ニ思ヒマス

オ　何挺位

ヒ　最初三千挺位ノ話ダッタガ其ノ中ニハ二三挺位シカ入手シナカッタ様ナ模様デシタ

オ　被告ハ昭和七年五月三日山水閣デ古賀、中村ニ会ッタネ

ヒ　ソウデアリマス

オ　ドンナ用件デ

ヒ、古賀カラ手紙ガ来テ五月三日ニ来テ呉レトノ事デシタノデ行キマシタ

オ　其ノ時両中尉トノ話ハ

ヒ、議会襲撃ニ就イテ綿密ニ偵察シテ呉レトノ事デシタノデ詳細ニ偵察シ又古賀カラ注文モアリマシタノデ政界財界ノ名士ノ写真ト短刀七丁ヲ渡シマシタ其ノ内ノ一丁ハ中島忠秋カラ受取ッタモノデス、

オ　其ノ写真ハドンナモノ、

ヒ　主トシテ三菱系ノ岩崎小弥太其ノ他ノ物デアリマシタ

オ　政界ハ首相、西園寺牧野等ダネ

ヒ　ソウデアリマス、

オ　デ、古賀ハ五月二十日ニ決行スルノダトハ話サナカツタカ、

ヒ　ソウデシタ、ダカラ五月八日ニ士官候補生ニ会ヘル様ニ取計ツテ呉レト言ツテ百円渡シタノデ夫レヲ貰ツテ帰リマシタ

オ　次ハ昭和七年五月九日ニ奥田ト会見シタネ、

ヒ　ソウデアリマス、

オ　ドンナ話ヲシタ

ヒ　今カラ実行ヲ目指シテ首相官邸、工業倶楽部、牧野邸ヲ偵察シヨウト云フ事ト今一ツハ工業倶楽部ガ餘リ襲撃ニハ適シナイト云フ話デシタ

オ　ドウシテ

ヒ、他ノ名士達モ出入[illegible]シ尚他ノ事務所等モ有リ夫レニ
目黒デハ集リモ[illegible]ウカラト云フノカ理由デアリマス、
オ、奥田トノ約束ニ[illegible]報告ハ偵察シタカ、
ヒ、偵察シマシタ其ノ結果明治神宮外苑デ会ツテ連絡
ヲ取ロウト云フコトニシテ別レマシタガ五月八日ノ夕方只一回
会ツタ丈ケデシタ
オ、デハ報告ハ前約ノ通リ五月八日ニ原宿デ古賀ニ会ツタカ
ヒ、会ツテ居リマス
オ、夫レ迄ドウシタ
ヒ、古賀ト会フ迄坂本ト連絡シヨウト致シマシタガ集ツタノ
ハ後藤、金清、私、古賀、中村丈ケデシテ山岸、村山、黒岩
ノ海軍士官ト一緒ニナツテ話合ノガード附近ノそば屋ノ二
階ニ行キマシタ
オ、二階デ古賀ハドンナ話ヲシタ

ヒ、首相官邸、牧野邸、工業倶楽部ニ確定シタ日時ハ五月十四日
士官候補生ノ役割ハ首相官邸ガ六名、牧野邸ガ三名、工業
倶楽部ガ二名トシ六、三、二ノ割合デ時刻ハ十五日決定スルトノ話
デシタ

オ、ソレデ被告ガ十五日山水閣ニ於テ古賀カラ時刻ヲ聞イテ夫レヲ上野
駅デ黒岩ト落合ッテ傳ヘ黒岩ハ更ニ夫レヲ○○ニ傳ヘ○○ハ又更
ニ士官候補生ニ傳ヘルヨウニナッテ居タノデスネ

ヒ、ソウデアリマス

オ、其ノ時手榴弾ノ数ガ少シ殖ヘタノデスネ

ヒ、士官学校デ教ハッテ居ルカラト言ヒマシタガ其ノ要領ヲ教ヘテ
居リマシタ

オ、夫レデ終ッタノダネ、

ヒ、ソウデアリマス

オ、其ノ時工業倶楽部ヤ警視庁襲撃ノ話ハ出ナカッタカ

ヒ、記憶致シマセン

オ、昭和七年五月九日被告ハ上野駅ニ行ッテ奥田ニ金ヲ渡シタカ、

ヒ、ソウデアリマス、

オ、幾ラ渡シタカ

ヒ、五円デス

オ、手紙モ渡シタカ

ヒ、ソウデス

オ、ドンナ事ヲ書イテアッタ

ヒ、工業倶楽部ハ目標トシテ感心シナイ理由ヤ夫レヨリモ三菱銀行ヤ岩崎小弥太郎等ヲ直接襲撃シテ殺害シタ方ガヨイト書イテ置キマシタ

オ、昭和七年五月十三日奥田ト一緒ニ山水閣ニ行ッタネ

以下12葉、

ヒ　ソウデアリマス

オ　誰レト會ヒマシタ

ヒ　古賀中村後藤ト會ヒマシタ

オ　ソレデドンナ話ヲシマシタ

ヒ　目標中ノ工業倶楽部ハ変更シテ政友会本部トスルコト其処ガ終レバ直チニ警視庁ヲ襲撃スルコトソレデ直チニ憲兵隊ニ自首スルコト時刻ハ午后五時トスルコト而シテ牧野邸襲撃隊ハ泉岳寺ヘ政友會本部組ハ新橋驛ヘ集合スルコトトシ奥田ハ随意ニヤル様ニ話シガアリマシタ

オ　デハ首相官邸ノ襲撃隊ニハ誰レガ行ク事ニナツテ居タ

ヒ　三上、山岸 黒岩 等ト士官候補生デシタ

オ　牧野邸ハ

5/1

ヒ　古賀中尉ト士官候補生デスガ名前ハ判リマセンデシタ

オ　第三班ハ

ヒ　中村中尉デスカ矢張リ士官候補生ハ名前ハ判リマセンデシタ

オ　其ノ時計画書ヲ受取ッタネ

ヒ　ハイ古賀ガ一ツ黒岩ガ一ツ受取リマシタ

オ　デハ変電所襲撃ハ何時ニ決シタ

ヒ　午后七時前後トシマシタ

オ　其ノ時後藤ハドコデ話ヲシテ居タ、手割リガ出来タトイフコトダケダッタカ

ヒ　ソウデアリマス

オ　此ノ時ニ担任者武器ノ割当等ガ決ッタネ

ヒ　ソウデアリマス

オ 其ノ時西田税暗殺ノ話ハ無カッタカ

ヒ 気ガ付キマセン

オ 其ノ時迄ハ未ダ何処ノ変電所ハ誰レトハ判ラナカッタネ

ヒ ハイ未ダ漠然トシテ居リマシタ

オ 其ノ時旅費ハ五十円受取ッタネ

ヒ ソウデアリマス

オ ソシテ上野驛デ黒ノ岩ニ会ッタノダネ

ヒ ソウデス

オ ドンナ話ヲシタ

ヒ 時間ヲ打合セテ手紙ヲ渡シマシタガ一方佐世保ノ同志カラ決行ヲ待ッテ居ルノ電報ガ頻リト来ルトコロノデ又土浦ニ引返シテ相談シタ上翌日午前十時後藤ト一緒ニ上野驛デ会フ様ニ話シマシタ

オ　被告ハ三月十四日午前八時頃林正一ノ方デ林正二ニ
會ッタネ
ヒ　ソウデアリマス　午前十時迄一緒ニ行ク様ニ頼ミマシタ
オ　ソシテ下十條ノ男ノ宅ヲ探シタガ判ラナカッタノダネ
ヒ　ソウデス
オ　デハ十五日ノコトハ
ヒ　午前八時頃陸軍中尉ノ関ト云フ者ガ下宿ニ尋
ネテ来テ是非會ヒタイトノコトデアッタノデ喫茶店ニ
行ッテ會ヒマシタラ、海軍側ト一緒ニヤルコトハ是非
ヤメロトハ云ヒマセン尚倉沢中尉ガ是非會ヒ度イト
云ッテ居ルカラトノ話デアリマシタノガ私ハ倉沢中尉ニ會
フコトダケハ承諾シテ別レマシテ夫レカラ関根軍装店ニ行
ッテ古賀ニ會ヒマシタ
ソシテ時間ヲ確メマシタラ「五一五」「通ヲ」ト云ッテ百円ヲ

渡シマシタ
尚、士官候補生ハ外出止メダカラ脱出シテデモ参加スル様
ニ話シマシタ。夫レカラ私ハ坂本ト鰻屋ニ行ッテ四十円渡シテ
計画書ヲ渡シテ別レマシタ
夫レカラ
上野ノ八千代館ニ後藤ヲ尋ネマシタガ不在ダッタ
ノデ女中ニ決行ハ予定通リトノ置手紙ヲ托シテ夫レ
カラ菅波中尉ヲ尋ネマシタラ菅波中尉ハ士官候補
生等ヲ犬死サセ度クナイコト、未ダ其ノ時期デハ無イコト
ヲ説イテ決行ヲ中止スル様勧メラレマシタガ私ハ夫レデ
ハ禍ヲ後ニ残ス許リダト思ヒマシタノデ返答ハ致シマ
センデシタ
ソレカラ午后五時頃坂本ト自動車デ内大臣官邸附近迄
行ッテ牧野ガ官中ノ武道大会カラ帰ッタカドウカト思ヒ

ッテ確メマシタラ水ダラシカッタノデ泉岳寺ノ近クニ行ッテ偵察シテ夫レカラ主税亭ニ行ッテレマシタラ古賀ね来西川管ハ木候補生等ガ既ニ集ッテ居リマシタ

オ　夫レカラ

ヒ　古賀ニ牧野ハ居ルカト尋ネタラ「居ル」ト云ヒマシタガ「警視庁ニ主力ヲ注グカラ手榴弾一ッ投込メバヨイ」ト云ヒマシタノデ西川ト私デ手榴弾其他ノ武器ヲ分配シテ五時十五分頃自動車デ私ハ助手台ニ乗ッテ牧野邸ニ乗リ着テ古賀ト私トガ下車シテ古賀ガ手榴弾ヲ一発投ゲッケマシタラ玄関迄届カズ玉砂利ノ上デ爆発シマシタノデシタラ警戒ノ巡査ガ驚イテ手ヲ揚ゲテ向ッテ来タノデ参銃ヲ一発打ッ放チマシタ

オ　当ッタカ

ヒ　当ッタカドウカ判リマセン

オ　デハ自動車カラ降リタノハ古賀ト被告丈ケカ

ヒ　ソウデアリマス

オ　外ノ者ハドウシタ

ヒ　西川ハ拳銃デ運轉手ヲ脅迫シテ命ニ從フ様ニシテ居リマシタ

オ　手榴弾ハドノ辺ニ向ッテ投ゲタカ

ヒ　門前ニ向ッテ稍右ノ方ニ向ッテ敷石ノ方ニ投ゲツケマシタ

オ　ドノ辺デ爆発シタ

ヒ　ドノ辺デ爆発シタカ判リマセン

オ　夫レカラドウシタ

ヒ　私ハ前方及周囲ヲ警戒シ乍ラ持参シテ来タビラヲ撒キマシタ

オ　ドンナビラダッタ

ヒ　我々ノ今回襲撃ヲ決行スルニ到ッタ目的ト農民ノ奮

起ヲ促シテ居タ趣旨ノモノデシタ

オ　デハ警視庁襲撃ノ模様ハ

ヒ　左側ノ人道ノ近クデ古賀ノ外全部降リテ最初ニ金清ガ三階ノ総監室目ガケテ手榴弾ヲ投附ケマシタガ途中ノ電柱ニ打ツカツテ爆発シテ了ヒマシタ坂本ハ本館ノ投ゲタノハ爆発セナカツタ様デシタ

其ノ内ニ金清ノ投ゲタ爆弾ノ音ヲ聞イテ玄関ニ二十名位ノ者ガ出テ来タ様ニ思ヒマスガ巡査ノ制服ハ着テ居リマセンデシタケレ共西川「発射」ノ命令デ射撃シマシタ

然シ古賀ニ引止メラレテ引上ゲルダトイフノデ夫レデハ民政党本部ヲヤロウトイヒマシタラ古賀ハ其ノ必要ハナイトイフノデ夫レカラ直チニ憲兵隊ニ行ツテ自首シマシタ

オ　デハ被告ハ予審終結決定書ニ在ル様ナ行為ガ十五日ニ行ハレタコトハ認メルネ

ヒ　ソウデアリマス

オ　デハ古賀、中村、三上、山岸ノ四中尉、黒岩、村山ノ両少尉、士官候補生十名、夫レニ奥田ガ参加シタコトモ認メルネ

ヒ　ソウデアリマス

オ　夫レカラ農民側ノ方デハ誰ニガ参加スルカハ判ッテ居タカ

ヒ　橘、後藤ノ外ハ判リマセンデシタ

オ　矢吹、小室、大貫、春田、高根沢、橘等ガ参加スルコトハ

ヒ　判リマセンデシタ

オ　デハ川崎ガ西田税ヲ暗殺スルコトハ

ヒ　判リマセンデシタ

オ　堀川、照治、黒岩ノ三名ガ関係アッタカドウカ

トユフノハ？
判リマセンデシタ、
ヒ　デハ目標ハ首相官邸内大臣官邸警視庁政友會本部三菱銀行
変電所ダッタネ
オ　ソウデアリマス、
ヒ　夫レカラ西田税ヲ暗殺シ様トシタノデッタネ？
オ　ソウデアリマス
ヒ　夫レハ使用スル武器ハ拳銃短刀ハ判ッテ居ッタネ？
オ　ソウデアリマス
ヒ　拳銃手榴弾ハ人ヲ殺傷スルモノデアルコトモ判ッテ居タネ
オ　勿論デアリマス
ヒ　デハ首相官邸襲撃ニハ首相ヲ暗殺スルト思ッテ居タカ？
オ　夫レハ予定通リデアリマス
ヒ　夫レハ何時カラ決ッテ居タ？
オ　一

ヒ　最初ノ會合ノ時カラ決ツテ居リマシタ。

キ　デハ内大臣官邸襲撃ニ就イテモ？

ヒ　仝様デアリマス。

キ　警視庁ハ？

ヒ　襲撃シタラ此度途中デ百名ニ百名ノ警官連ト遭遇スルダロウト思ヒマシタノデ主トシテ手榴弾デ応戦スル覚悟デシタ

キ　政友会本部ハ？

ヒ　人ノ殺生ハ主タル目的デハアリマセンデシタ。

キ　三菱銀行ハ？　仝様デアリマス

キ　変電所襲撃ハ？

ヒ　私達ガヤツタトニ因ル政界ノ動揺ニ依ツテ軍部奮起ヲ促スニ在リマシタノデ夫レニ依ツテヨリ効果的ナラシメル心算メラデアリマシタ。

キ　デハ襲撃ノ結果ハドウ云フ状態ガ起ルト思ツタノカ？

完全ニ成功スレバ軍部ノ陸軍ガ奪起シテ呉レルダロウトノ次

レデナクトモ或ハ[illegible]期スレバ陸軍奪起ヲ見ルカ若クハ農民一般国民ガ奪起スルダロウト思ヒマシタ

オ　被告ハ一体計画ハ誰レガ樹テタト思ツテ居タカ？

ヒ　大体古賀ガ樹テタモノデスガ軍部ノ同志ハ勝テノカラソッシヲ考ヘハ持ツテ居リマスカラ古賀ト許リハ云ヘマセン

キ　デハ金ハ？

ヒ　大川周明カラ出タト思ヒマシタ

キ　デハ銭ヲ出タ。

ヒ　額ハ判リマセヌガ銭ヲデモ出ストシタノ話デアリマシタ

オ　何ノ為メニ？

ヒ　夫レハ大川ハ自分ノ持ツテ居ル思想ト我々同志トノ気持ガ今様ダカラト思ヒマス

キ　デハ大川ハ一緒ニ起ツ話ハ無カッタカ？

ヒ　廿一日ノ話ニ出タ様ニ記憶シテ居リマス、

オ　変電所ノ襲撃計画ハ誰レガ発案シタカ、

ヒ　事情ハ詳シクハ判リマセンデシタガ古賀ノ持論ダッタ様ニ思ヒマス

オ　橘ガ計画シタノデハ無カッタカ、

ヒ　其ノ辺ノ事情ハヨク判リマセン

オ　牧野内大臣ノ官邸ノ所在地ハ芝区三田台町一ノ五ダネ、

ヒ　番地ハ知リマセンガソウダロウト思ヒマス

オ　デハ大臣候補生ノ割当テハ誰レガシタノデスカネ、

ヒ　籤引ダッタロウト思ヒマス

オ　デハ十五日ニナッテ初メテ判ッタネ

ヒ　ソウデス

オ　デハドウシテ牧野ヲ暗殺シナカッタネ、

ヒ　、私ハ古賀ガ「牧野邸ハ警視庁ニ非常ニ遠イカラト云フノデ

我々ハ極力反対シマシタガ古賀ハ警視庁ヲ徹底的ニヤッツケレバ牧野方ハ軍政ガ布カレテ簡単ニ始末サレルダロウト思ッタラシイノデス.

代ノ端亀山弁護人起ッテ裁判長ニ向ヒ

亀 裁判長氏、際一言御訊ネシマスガネ、

トテ更ニ被告ハ池松武志ニ向ヒ

亀 首相官邸内大臣官邸襲撃スル折リマデスネー牛込ノチカラ亭デ會合シタ折ニ夫レハ取止メニナッタノデハアリマセンカ？

ト向ヒ質セバ是ニ対シ裁判長ヨリ

キ 牛込ノチカラ亭ト云ヒマスト夫レハ芝ノ方デハアリマセンカ？牛込デ被告達ガ會合シタノハミ有社トカ関根軍装店ダケデチカラ亭ト云フノハアリマセンヨ！

亀 兎ニ角先刻チカラ亭デ會合シタト云フ問答ガアリマシタ

オ　様デスガー

ヒ　デハ芝ノ泉岳寺ノ方ノ主税亭ノヿデセウ
（亀山弁護人ニ向ヒ）明答シマス主税亭デノ変更ハ牧野邸ノ方丈ケデ首相官邸ノ方ハ元ノ通リデス

亀　首相官邸ノ方モソウ云フ話ガアッタノデハアリマセンカ

ヒ　一寸待ッテ下サイト（暫時黙想シタ後）海軍側ノ記録ガ私達ノ方ニ廻ッテ居リマスガ其ノ中ニ書イテアッタトガ記憶ニ残ッテ居リマシタノデ其ノ下ト間違ヘテ答ヘタノデシタ

亀　山岸ガソンナヿヲ話シタニ就イテ首相官邸ノ方モヤメルトハナラナカッタノデスカ。

ヒ　ソウデハアリマセン夫レハ平素ノ吾々ノ持論カラ云ッテモソウデス

亀　夫レハ其ノ方ダケノ御考ヘデスネ、

ヒ　考ヘデハアリマセン解釈デス

亀 デハ他ノ被告達ハ又解釋ガ違ヒマスネ？

ヒ 夫レハ違フデセウ

亀 デハ宜敷ウ御座イマス

以上ノ通リニテ亀山弁護人対池松被告ノ應答ハ終レバ裁判長ハ

更ニ被告ニ向ヒ

オ デハ被告ハ山水閣デ橘、後藤ニ會ツタトハ間違ヒナイネ？

ヒ ソウデアリマス

オ 其ノ時首相内大臣暗殺ノ話ガ出タコトガアルカ

ヒ デハ休ンデ――トテ裁判長ハ被告ニ着席ヲ促シ

オ 一時休憩シテ二時卅五分カラ始メマス

右ノ次第ヲ以テ裁判長ハ休憩ヲ宣シ一時退廷ス

時ニ午后二時十七分

再開午后二時四十分裁判長ハ引續キ池松被告ノ審理ヲ續ケマス

オ 引續キ訊ネルガ先刻内大臣官邸襲撃ノ際被告ハ八木ガヤッ

タ様ニ云ツタカ入木ハ首相官邸ノ方ニ行ツタネ：

ヒ　ソウデシタ、間違ヒマシタ

オ　デハモウ少シ聴キ度イノハ士官候補生達ハ外出ハ平素ドンナ風ナ工合デ外出スルノ

ヒ　日曜祭日以外ニハ新戚ノ葬式カ病気カデナケレバ許サレマセン日曜ニハ午前八時カラ午后六時頃迄其ノ外天長節明治節靖国神社ノ招魂祭等ニハ午后九時半迄許サレマス尚其ノ外伝染病流行ノ場合演習ノ場合等デス

オ　デ外出スル時ハ何カ内鑑カ何カ必要カ、内鑑ハ必要アリマセンガ週番士官ガ服装検査ヲシテカラ出シマス

オ　アノ日ハドウシタ

ヒ　満州ニ行ツタ期ハ全然外出ヲ禁止サレテ居リマシタ

オ　デハ外部トノ聯絡ハ被告ガ居ナケレバ全然外出来ナカツタネ…

ヒ　殿下ガ外出ラレテ居リマスカラ出来ナイ事モナカッタ

ノデス

オ　其ノ日ハドンナ風ニシテ外出ラレタカ

ヒ　殿下ハ期ト満洲ニ行ッテ来タ期トハ服装ガ

幾ラカ違ッテ居リマシタガヨク注意スレバ判リマスガ

殿下ノ期ノ様ニシテ外出ラレタ、

オ　被告人ハ先刻「は期」ト云フ言葉ヲ使ッタネ、アレハ

ドウ云フ意味カ

ヒ　陸軍側ノ者ガ起シタはリット云フ意味デ云ヒマシタ

オ　デハ法律上ノは期トハ違ウノダネ

ヒ　少シ違フダラウト思ヒマス

オ　少シデハナイ大イニ違フ様ダネ

オ　デハ被告ハ現在ドウ思ッテ居ル

ヒ　先ヅ最初ニ世間カラ大イニ誤解サレテ居ル様デス

カラ先ヅ陸軍ノ軍法会議ノ所見カラ申上ゲマス、陸軍デハ三月事件ヤ十月事件ニ関シテモ何等処罰者ヲ出シ得ナイ状態ニ在リマシタガ検察官ノ論告ノ中ニ士官候補生ニ当テ嵌メルノニ軍刑法反乱罪中ノ首魁、蜂起、附和雷同其他諸般ノ事務ニ従事シタル者トアル中ノ「諸般ノ事務ニ従事シタル者トシテアリマスガ是ハ非常ナ誤謬ノデアッタノデアリマス、事件ノ内容ハ政党腐敗、財閥ノ打倒スルニ在ルノデアリマシテ軍隊ニ於テ軍司令官ニ対スル参謀ヲ罪スルトスル事ハ本事件ノ如キ事件ニ関シテハ私ハ当然首魁タラネバナラヌト思フノデアリマス、是ヲ検察官ハ情状論ニ於テ事情ヲ熟知シテ居リ乍ラ恰モ之ト絶対関係デモアルカノ様ニ

論告サレテ居リマスガ夫レハ本質的ニ私ハ古賀中尉ト合作デアリマス、ソレカラ農民側ノ問題ノ事デアリマスガ是レハ農民ニ問題ガアルトハ判リマセンデシタソレ橘等ハ十月事件以来軍部側ニ引摺ラレテ来タノニ外ナラヌノデアリマスカラ情状酌量論ニ於キマシテモ当然考慮セネバナラヌト思ヒマス、先刻ノ弁護士ノ様ナ質問等モ有リマスノデ申上ゲテオキマス。

次ニ事件ノ結果ニ就イテ申シ述ベマスガ首相ヲ暗殺スルノハ我々最初カラノ計画デアリマシテ決行者ニ対シテハ我々ハ感謝セネバナリマセン、併シ首相ニ対シテハ寧ロ高潔ナル政治家トシテ敬慕シツツアツタモノデ誠ニ同情ニ堪ヘマセン、今トシテハ我々ハ決シテ是ガ犬死ニ終ラセテハナラヌノデアリマス、尚牧野ヲ暗殺スル事ノ出来ナカツタノハ非常ニ残念デ溜

憾ニ堪ヘナイノデアリマス、又警視庁襲撃ニ対シテハ
建物ハ問題デハアリマセンデシタガ牧野邸ヲ犠牲ニ
シテ迄モ一戦モ交ヘズシテ終ツタ事ハ誠ニ残念デ
アリマス、三菱銀行、政友会本部、其ノ他ハ予定
ノ通リデスガ何モ申上ゲル事ハアリマセン、農民
側ニ対シテハ此ノ計画ガ予定通リ成功スレバ国家
的ニドレ程覚醒ヲ促シタカ知レヌト思ヘバ誠ニ残念
デナリマセン、只軍部ガ其ノ実力ヲ試験セズシテノ
任セタヿヲ遺憾ニ思ヒマス、私共ハ未ダ修養ガ足
ラズシテ本件ノ効果的ニ導キ得ナカツタ事ヲ
非常ニ残念ニ思ヒマス、尚吾々ノ行為ニ依リマシ
テ政党、特権階級、財閥等ニ対シ直接間接
ニ幾何反省ヲ与ヘ得タ事ヲ思ヘバ今苦業ノ身
ヲ以テ非常ナ欣快トスル所デアリマス、

言フノ此ノ後軍部側ノ奮起ガ無クテモ斎藤
内閣ガ樹立サル事ハ予期シテ居タ処デアリマスガ
問題直後ノ内閣デアリ何ラ何等為ス処無キヲ
思ヘ心ハ誠ニ憂慮トスル処デアリマス、農村問題、自
力更生等ト申シテモ農村ヤ商工業者
ヲ救済スル事少クシテ自力更生トハ恰モ足ヲ縛
ッテ歩ケト云フト同様デ歩ケルモノデハナイノデ
アリマス、吾人ハ政党ノ腐敗ニ対シテノ云々ガ起ッタニ対
シテモ永井柳太郎ノ如キハ法螺許リ吹イテ居
テ実質的ニハ何等ノ働キモ致シテ居リマセ
ン、政友会ハ三百名カラノ多数ヲ得ナガラ尚且党利
党略ノ為ニ国民ヲ瞞着シテ居ルノハ誠ニ遺憾
モ有リト云フベキデアリマス、財閥モ亦同等
国民ノ福利等ハ聊カモ考ヘテ居ルモノデハナク

牽ロ共産主義者ト共ニ英米寄リニ傾倒シタ者ガ
マジッタト思ッテ居リマス、次ハ国民一般デアリマス
ガ今ヤ我国ハ国際的ニ聯盟脱退、軍縮問題等
デ重大ナ危機ニ立ッテ居ルノデアリマスカラ国内
ノ充実ハ元ヨリ絶対必要デアリマスガ今ノ様ナ状
態デハ甚ダ不安デアリマス、日本ノ国内ガ思想的
ニ分離ガアルノニツケ込ンデ米、露、支等ノ諸
国ガ如何ナル行動ニ出ルカハ想像スルニ難クナ
イ次第デアリマス、次ハ私ノ新シキ思想傾向デアリ
マスガ私ハ今迄刑務所内ニ於テ考ヘタ結果トシ
テ国民全体ヲ改造シナケレハ駄目ダト思ヒマシテ
考ヘ、伝統的生命ナモノハ忘レラレテ終ッテ欧
米ノ個人主義的思想ニ禍サレテ居リマスカラ先
ヅ此点カラ改造シナケレハナラヌノハ論ヲ俟タヌ

処デアリマス、此人思想ト行動デアリマスガ是等ノ事件
ニ関シテ全国ノ嘆願書ハ続々ト裁判所ニ殺到
サレツツアリマスノニ対シ如何ニ処理サルベキカニ就
イテハ識者トシテ申上グベキモノハアリマセン、所謂
思想ニ関シテ簡単ニ申シマスレバ思想ガ頽廃
スレバ国家ノ衰亡ヲナケレバナラヌノデアリマス、現
在ニ流タルガ如キ自覚随従ノ頽廃ト共ニ論ジ
モ未判ノ教ガ確立シテ居ナカッタナラバ識ニ偏ノ大
ナルモノアルヲ思フノデアリマス、デアリマスカラ嘆願者
ニ対シテハ憐レンデ惑ハサルル事ナク陸軍ノ軍
法会議ニ於ケル如キ峻厳ナル態度ヲ以テ処断
サレナケレバナラヌト思フノデアリマス、サナクバ憲法
下ニ於ケル国民ニ対シテ再ビ今行ナル事ヲ起サ
シムルガ如キ結果ヲ来スニ至ルデアラウト思フ

ノデアリマス、吾々ハ戦役ヲ度外視シテヤッタ行為ニ対シテハ厳格ナル法ノ裁キヲ全般ニ亘ッテ刑ノ徹底的扱リコソ我ガ常ニ望ムトコロデアリマス

次ハ国民間ニ於ケル減刑運動デアリマスガ一應ノ意見ヲ申上ゲマスレバ形式的儀礼的ニ為スノデアレバ論ハ無イノデアリマスガ是ガ彼等ノ真心カラ出タモノデアルトスレバ彼等ノ間違ヒデアルト申サネバナラヌノデアリマス、彼ノ日露戦争ニ於テモ戦友ノ戦死ヤ負傷ニ一々心ヲ奪ハレテ居タナレバ今次日本ハツアーノ蹂躙ニ任セナケレバナラナカッタダラウト思フノデアリマス、サレバ共同ノ敵ノ為ニハ吾々カラノ屍ヲ踏越ヘテ進ンデ敵ヲ[illegible]何時迄モ特権階級ヤ財閥、地主等ニ欺レ

ルノデアリマス、吾々ハリウデナケレバ彼等ノ厚意ハ受ケ難クアリマセン、中ニハゴマカシテモ出所シテ再ビ革新運動ヲヤツタラト思フ様ナ人ガ居ルカモ知レマセンガソレハ個人主義的革新運動デアツテ百害アリテ一利ナシデアリマス、吾々ノ氣持ハ楠公ノ七生報国ノ氣持ト全ク同ジデアリマス、以上色々ト所感ヲ述ベマシタガ私ハ大日本帝国ノ光栄アル将来ニ向ツテ祖国日本ガ必ラズヤ其ノ歴史ニ興シ生命的活動ニヨツテ永遠ニ榮ヘ行ク事ヲ信ジ常ニ大満悦ニ浸ツテ居ルノデアリマス、以上デアリマス、

オ　デハカケテ

右ヲ以テ才判長ハ池松検事ノ訊問ヲ終リ被告ニ傳称ヲ促シタリ、

オ　本日ハ是デ閉廷致シマス、次回ハ十月三十一日午前

九時トテ開廷ヲ宣ス
時二十分休三時三十五分ニ一同無事退廷ス

太又申(通)報候也

特高秘第五二七八號

昭和八年十月三十一日

警視總監藤沼庄平

内務大臣山本達雄殿

各廳府縣長官殿

五、一五事件民間側関係者公判状況（第十五報）

本日東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第十五回公判状況左記ノ通リ

記

一、日時　十月三十一日　自午前九時　至仝四時

一、場所　前回ニ仝シ

寫
警保局 8.11.10 金 保
一五四

(1)

一裁判長　仝

一係判検事　仝

一被告　仝（橘孝三郎外十六名）

一辯護人（本日出席者）

深作貞治　石川淺　池田操

若井孝太郎　花井忠　柏木五百次郎

江橋治郎　亀山要　樫村廣史

川井金一郎　栗原幸之助　遠藤榮三郎

岩松孝雄　前川盈一郎　木下好太郎

谷口榮藏　森田重治郎　池田鎮太郎

角岡知良（以上十九名）

一傍聴人

一特別傍聴人　一八名

一般　仝　二三名

家族近親者　一〇名

一　公判状況

1　被告ノ押送法廷内外ノ警戒状況前報ノ通リニシテ事故ナシ

2　弁護人新聞記者ハ開廷前ニ裁判長以下係判検事ハ正午前九時被告、傍聴人ハ稍々遅レ開前後シテ仝四分何レモ入廷着席ス

3　全部ノ入廷ヲ終ルヤ裁判長ハ元明大学生ニシテ三菱銀行ヲ襲撃シタル被告奥田秀夫ヲ呼出シ事実審理ニ移リ仝十時十分小憩、仝三十分続開仝志ノ聯絡、決行当日ノ状況等最後ニ被告現在ノ心境ニ付陳述ヲ為シ仝被告ノ審理ヲ終リ仝十一時三十分一時間半ノ休憩ニ入ル

4　午後一時再開井上日召川下元小学校訓導堀川

秀雄ノ訊問ニ移リタルガ被告ハ上申書草稿ニ付所々朗讀シ家庭ノ状況ヨリ動機ニ付テ陳述シ終リ午二時十五分小憩午三十分續開血盟團事件被告古内榮司トノ友交關係ヨリ井上日召ノ人物觀並指導状況ヲ述ヘ一人一殺主義ニ付陳述ヲ為シ午四時閉廷ス

5 被告奥田秀夫ハ動機論ニ付テハ池松武志等ト仝様ナリト省略シ決行後検擧ニ至ル経緯ニ付テ下宿ニ於ケル家人トノ對話或ハ検擧ノ刹那ニ於ケル他人ヲ裝ヒタル状況等満廷ヲ笑ハセ終始談笑裡ニ陳述ヲ為シタリ

6 被告堀川秀雄ハ動機論ニ於テ小學校訓導時代ノ経驗ヨリ觀タル教育界ノ腐敗振リヲ指摘シ司直ノ「メス」ヲ此所ニ振ハヽ正ニ全國教育ハ停

止スルニ至ルデアラウト痛論シ井上日召ハ「偉大ナル人格者ナリ」ト賞揚シ改造運動殊ニ一人一殺主義ニ付テハ法華経ノ妙諦ナリト断シ縣視學並小學校長ノ没常識振リヤ古内榮司ノ人物観等ニ付テハ裁判長等ヲモ笑ハセ夫々圓満ナル裁判ノ進行ヲ見セタリ

又次回公判ハ来ル十一月二日午前九時開廷ノ旨ニシテ今被告ノ事實審理ニ移ル旨

二　審理状況

裁判長ハ奥田秀夫ヲ呼出シ訊問席ニ起タセ

裁　被告ノ事件ハ検事ノ述ベラレタ事ト間違アイカ

被　間違アリマセン

裁　前科ハナイネ

被 アリマセン

裁 家庭ノ状況ハ豫審デハ父ハ健在デ朝鮮デ漁業ヲ營ムデ居ルト云ッテ居ル以下間違ハナイカ

被 サン附加ヘタイト思ヒマス私ハ小學校ノ時朝鮮ニ渡リマシタガ父ト母トガ性格ノ相違カラ父ハ余リ家ニ居タコトハアリマセンデシタ夫レデ私ハ母ノ手一ツデ育チ母ガ死ンデカラハ弟ハ父ト一所ニ為リ私ハ時計屋ノ徒弟ト為リマシタ徒弟ト云ッテモ實ハ飯炊キデシタガ高等小學校丈ハ卒業シ其ノ内時計屋ハ失敗シテ閉店シタノデ叔母ノ家ニ引取ラレ實ハ叔母ノ家ノ相續人ニ為ッテ居リマス

裁 資産ノ状態ハ何ウカ

被 資産ハ叔母ノ家ニハアリマスガ借金モ相當アリマ

スミヨク分リマセン

裁 學歴ニ付テハ被告ハ豫審デ私ハ昭和五年三月朝鮮羅南中學四年ヲ修了日大豫科ニ入リ檢擧ノ際ハ本科三年生デアリマシタト云ッテ居ルガ間違ヒナイカ

被 間違ヒアリマセン

裁 職業上ノ経歴ハナイネ

被 アリマセン

裁 趣味嗜好ハ

被 私ハ何デモヤリマス

裁 柔道モ初段ダッタネ

被 左様デス

裁 思想團体トノ關係ハ

被 私ハ靖國神社ヤ明治神宮ニ参拝シタリ

宮城ヲ遥拝スル丈デ何等関係ハアリマセヌ

裁 被告ハ本件ニ参加シタコトハ間違ヒナイネ

被 間違ヒアリマセヌ

裁 参加ニ至ツタ理由動機ハ池松等ト全ジカ

被 全ジデアリマス

裁 四元義隆ヲ知ツテ居ルネ其ノ知リ合ヒニナル関係ハ

被 私ガ中學時代ニ夏休ミノ時家ニ皈リ學生ハ學生ト遊ブ関係カラ知リ合ヒニナリマシタ

裁 上京後四元ト合ツタ場所ハ何處カ

被 四元ハ錦鶏學院ニ居リ其ノ後所々ヲ轉々シ本郷ノ千駄木町カラ權藤先生ノ塾デス

裁 夫レハ代々幡ノ塾カネ其所ニ下宿シテ居タネ

被 左様デス

裁　錦鷄學院ニ四元ヲ訪ネテ行ッタ時何ンナ人ニ會ッタカ

被　井上日召、小沼正、池袋正八郎等ニ會ヒマシタ

裁　權藤ノ寮デハ何ンナ人ニ會ッタカ

被　矢張仝ジテアリマス

裁　伊藤ヤ大庭等ニ會ッタト云フカ

被　夫レハ記憶違ヒデス

（以下次葉）

裁　金鶏学院ヤ権藤寮ノ塾デ小沼ニ會ツタ程度ハ

被　仝志トシテ国家革新ニ付話シマシタガ具体的事實ニハ余リ関係シテ居リマセン

裁　被告ハ血盟団事件ニハ関係ハアルカ

被　夫レモアリマスガ十月事件ニモ関係ガアリマス

裁　血盟団事件ニ関係ノ程度ヲ聞キタイ

被　私ノ下宿先デアル中野区新井四五三番地ノ林新太郎方ニ四元ガ来テ日召ガ会ヒタイト云フノデ日召方ニ行クト池袋等モ居リマシタガ日召ハ私ハ隣ノ間ニ呼ンデ十月事件ハ失敗シタガ吾々ハ一人一殺主義デアルカラ君モ参加シテ呉レト云フノデ私モ承知シ今ハ選挙前デ政界ヤ財界ノ巨頭連中モ動イテ居ルカラ適当ノ時機ダ君ハ政界ト財界ト何チラガヨイカト云フノデ私ハ個人的ニハ何モ恨ハナイノダカラ何チラデモヨイト三菱ノ本

村久寿弥太ヲヤツテ呉レ今度ハ捕マツタ時ニ友人ノ住所ヤ受持関係ヲ知ラナイ様ニ他人ノ事ハ聞カヌ事ニスル君ハ決行スル自信ガ就イタラ来イ其ノ時武器ヲ渡スカラ夫レ迄ハ餘リ近ヅカヌ様ニセヨト云ワレタノデ私ハ次ノ日カラ牛込区弁天町七六番地ノ木村邸ヤ本店ノ調査ニ行キマシタガ小沼ガ井上ヲヤツテカラハ警戒ガ厳重ニナリ木村邸ノ処ハ込ミ入ツテ居テ自動車モ沢山出這入リスルシ其ノ姿ヲ発見スルニ至ラズ自動車番号モ分ラズ銀座ヤ神田ノ本屋デ木村氏ノ自動車番号ヲ探シマシタガ分ラナイ二月ノ末カ三月ノ初メ頃デシタカ四元ガ雑誌ノ切抜ヲ持ッテ来テ呉レ調査仕様ト思ツテ居ルト又菱沼ガ團ヲヤリ四元ガ来テ警戒ガ厳重ダカラヤレナイ暫ク動カズニ集団的テロデ一挙ニヤロウト云ヒマシタガ其ノ翌日カニ検挙サレタノデス

裁　井上ハ決心ガツイタラ来イト云ツタカ
被　決心デハアリマセン決心ハ既ニツイテ居ルノデヤレル自信
ガツイタラ来イト云ツタノデス
裁　武器ハ何カ
被　拳銃デス
裁　見セタカ
被　夫レハ見マセン
裁　其ノ前ノ六年ノ十月事件ノ関係ハ
被　十月ノ初メダト思ヒマスガ私ノ下宿デアル中野ノ鈴木方
ニ四元ガ来テ日召ノ処ニ行クト日召ヤ鷹野等ガ居リ
拳銃ヲイヂクツテ居タノデ私等ノ行動ガ具体化スル
ト思ツテ居ルト橘氏ガヤツテ来マシタ私ハ仝學舍ニ四
元ヲ訪ネルト愈々軍部ノ少壮士官トノ決行ハ具体
化スルノデ今カラ拳銃ノ練習ニ出掛ケルノダ君モ連

レテ行クガ今日ハ具合ガ悪イト云フ話デシタ其后四
元ノ話デハ一部民间ガ脱退シタノデ具合ガ悪イト云フ
コトデシタ其ノ位ノ程度デス

裁　其后ニ於テモ運動ニ参加スル意志ハアツタカ

被　連絡ガツケバ何時デモ参加スル考デシタ

裁　本件ノ計畫ニ最初ニ関係スル様ニ為ツタノハ

被　三月二十日ニ中村義雄ノ訪向ヲ受ケタノデスガ私ハ不在
中デシタガ販ツテ来ルト中村中尉等ガ居リ初メテト相
シマシタガ名前ハ誰ダカ分ラナカツタノデス中村ハ海軍
ノ霞ケ浦ノ者デアルガ池袋ノ連絡ヲヤツテ呉レト云、
レ血盟団ノ関係ヲ聞カレ武器モ渡ストハレ井上　人、
一殺主義デ失敗シタカラ集団テロヲヤリ爆弾ヲ投ゲ
ルノガイイト云フ話デ私モ参加スルカラ知ラシテ呉レト頼
ミマシタ

裁　其ノ時中村義雄ト分ツタカ

被　分リマセン

裁　其ノ后中村中尉ト明治神宮山道裏ノ長野朗方テ会ツタネ

被　其ノ時ハ原宿駅ニ午後七時点ニ来イト云フノデ行クト中村氏ガ居リ長野朗氏宅ニ行キマシタ長野氏ハ机ニ向ツテ何カ書キ物ヲシテ居リマシタガ其処テ会ヒマシタ

裁　其ノ時ノ話ハ

被　我々ハ血盟団ノ後ヲ享ケテ四月下旬カ五月上旬ニ決行シタイ目標ハ首相官邸、牧野内府邸華族會館デ

第一班ハ決行後東郷元帥邸ニ至リ元帥ヲ擁シテ宮中ニ至リ戒厳令ヲ奏請スルコト

第一班ハ権藤成卿宅ニ至リ権藤ヲ擁シテ荒木陸相官邸ニ至リ吾々ノ政策ヲ實行セシムルコト 第三班ハ刑務所ヲ襲撃シテ井上日召一派ヲ奪還シ我々ノクーデノ決死隊トシテ働カシムルコト

参加人員ハ軍部二十名 武器ハ手榴彈二十一個ハ三上中尉ガ上海デ入手シタガ未ダ持ツテ来テハ居ナイ拳銃ハ二、三十挺入手ノ筈ダ 君ハ東京ニ居ルノダカラ邸宅ヤ交番トノ距離其ノ他ノ地理ヲ見テ毎週水曜日ニ土浦ノ山水閣迄来ル様土曜ニハ僕ノ方デ来ルト云フ話デ私ハ長野朗ニ邸宅ノ所在地ヲ聞クト教ヘテ呉レ今日ノ日本ノ農村ハ正ニ百性一揆ガ起ル其ノ時ニハ軍部ノ向背ハ何ウ動クカ分ラヌ白昼軍人ガ帝都ヲ襲撃スレバ近縣ノ百性ハ起ツデアロウト云フ話デアリマシタ

裁　夫レデ分レタノカネ

被　サウデス

裁　中村中尉ニ依頼サレタ通リ偵察シタカ

被　其ノ後ノ日カラ偵察シマシタ

裁　何ウ云フコトヲ偵察シタカ

被　警備状態、出入関係、立番点ノ距離等デス

裁　何ウ云フ状況ダッタカ

被　日本倶楽部ヤ華族會館ニハ余リ人ガ居ナイシ東京倶楽部ニハ人ガ多ク集マルト思ヒマシタガ夫レハ錯覺デシタ

裁　山水閣ニ行ッタノハ

被　四月ノ六日デス

裁　誰ニ会ッタ古賀中尉カ其ノ時ノ話ノ内容ハ

被　會見ノ内容ハ前ノ話ヲスルト古賀ト中村ハ又議會ト

政友會本部、民政党本部、東京倶楽部ノ案ヲ出シ中村
中尉ハ東京地図ノ詳シイノヲ手ニ入レテ呉レト云ヒ又
私ノ下宿ハ人ガ一杯ダカラ連絡ノ場所ハ外ニ家ヲ見
付ケテ呉レル様、土曜日ニハ行クカラ池松ノ下宿ハ分
ツタト云フ話デシタ

裁　其ノ會見デ古賀中尉ガ本件ニ參加シテ居ルト云フコト
カ分ツタカ

被　左様デス

裁　何ンナ地位ダト思ツタカ

被　主從ノ関係デハナク古賀、中村ガ相談ノ結果ヤルノダト
思ヒマシタ

裁　會見ノ場所ヲ選定シタカ

被　四元ノ親戚ガ私ノ下宿ノ附近ニ居タノデ其処ヲ借リマシタ

裁　新ナ偵察個所ハ偵察シタカ

被　シマシタ

大 其ノ週ノ土曜日ハ昭和七年四月九日デスネ

被 ソウデス

大 古賀中村ト中央駅デ落合ツタネ 何ンナ話ヲシマシタカ

被 偵察ノ話デ地図ヲ拡シマシタ

大 其ノ時中村カラ議会開会中爆弾ヲ投ゲ農民ハ蹶起

私ヲ襲撃スルト云フ話ハアリマシタカ

被 夫レハ十三日ノ会見デス

大 其ノ後ハ土浦ニ何日行ツタカ

被 十三日デス

大 誰ニ会ツタカ

被 中村ガ参リマシタガ暫クシテ古賀モ来マシタ

大 話ノ内容ハ

被 私ハ首相官邸ト牧野内府邸ノ見取図ヲ渡シマシタガ其ノ時

今度ハ特別議会ノ襲撃ヲスル 誰カ二、三人ガ潜入シテ大臣席